

改新クラブ会派視察研修報告書		実施年月日	H31. 1. 17
		報告者	中鉢 和三郎
テーマ	「江戸ルネサンス事業」について		
研修先	東京都台東区	応対者	文化産業観光部文化振興課長 三瓶共洋 文化産業観光部副参事 吉田美弥子

1. 「江戸ルネサンス事業」とは

2018年は、江戸から東京へと時代が移り150年目。

台東区は、2018年を「江戸ルネサンス元年」と位置づけ、この節目を契機に、江戸時代の優れた面を改めて認識し、街に色濃く残っている魅力ある江戸文化や地域資源を発信する事業として「江戸ルネサンス事業」を展開している。

2. 事業概要

多くの来街者を迎える2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、啓発事業や情報発信（プロモーション事業等）、江戸関連イベント（冠事業）、連携事業（他自治体／区内事業者）、企画展示などを順次実施し、全区的な気運醸成を図る。

今後、区主催事業はもとより、外郭団体や区内事業者の実施する事業等を含めて「江戸たいとう」として、統一したシンボルマークを掲出し一体感を創出する。

2018年度は、「江戸に学び、未来を拓く」をコンセプトに、「講演会シリーズ『江戸から学ぶ』」を連続講座として開催するなど江戸をテーマとした事業を展開している。

〔図1 シンボルマーク〕



3. 2018 年度事業一覧

1. 講演会シリーズ「江戸から学ぶ」連続講座一覧（担当：文化振興課）

講演回	演題	日時	会場	講師
キックオフ	基調講演 私の見た江戸時代	5月27日	東京国立博物館 平成館大講堂	徳川恒孝氏 (徳川宗家十八代当主)
	トークセッション 今も生き続ける江戸・台東区			徳川恒孝氏 竹内誠氏 (江戸東京博物館名誉館長) 浦井正明氏 (寛永寺長膺) 服部征夫
第1回	上野の山から江戸がみえる ー町づくりと大工棟梁ー	7月1日	上野区民館 401 集会室	波多野純氏 (日本工業大学名誉教授)
第2回	江戸と寛永寺	9月16日	寛永寺 輪王殿	浦井正明氏
第3回	江戸と浅草寺	9月30日	浅草寺 五重塔院	壬生真康氏 (浅草寺教化部執事・勸学所長)
第4回	初代川柳生誕300年 ー江戸から TOKYO 川柳の文化と楽しみー	10月14日	寿区民館 4階多目的ホール	尾藤川柳氏 (十六代目櫻木庵川柳)
第5回	美術に見る江戸 ー台東区を巡ってー	11月4日	台東区民会館 8階第2会議室	河合正朝氏 (台東区文化財保護審議会委員)
第6回	浅草猿若町と幕末・明治の歌舞伎	11月25日	生涯学習センター 301 研修室	宮本瑞夫氏 (台東区文化財保護審議会委員)
第7回	基調講演 江戸との対話から見えてくるもの	平成31年 1月26日	東京国立博物館 平成館大講堂	ロバートキャンベル氏 (国文学資料館長)
	トークセッション 江戸を未来に活かす台東区			ロバートキャンベル氏 竹内誠氏 浦井正明氏

2. 江戸まちたいとう芸楽祭（文化振興課）

夏の陣 平成30年8月4日～10月28日 冬の陣 平成31年1月6日～2月16日

3. 台東区江戸創業事業所顕彰（産業振興課）

平成30年11月1日 区内の江戸創業の41事業所を顕彰

4. 墨田区・台東区観光連携協定事業（観光課）

平成30年10月8日 「江戸から明治、現代へー江戸を守った男たちー」シンポジウム
平成30年12月2日 西郷隆盛像建立120周年記念講演会「上野の西郷さんを語る」
平成30年12月10日、12日 「池波正太郎が描いた江戸めぐりツアー」

5. 江戸たいとう伝統工芸館リニューアルオープン（産業振興課）

平成31年3月28日 「江戸下町伝統工芸館」から名称を変更

4. 考察及び所感

台東区は、江戸の下町であり江戸文化を今に伝える趣のある街だ。ところが、昨今、東京への人口一極集中等により、台東区で生まれ育った区民の減少が著しい。

そこで、区民の郷土意識、帰属意識の醸成が喫緊の課題となっているようだ。

そうした中、2018年は、明治改元から150年ということで節目の年となっていることから、江戸ルネサンス元年と位置づけ、江戸の下町台東区に残る様々な江戸文化を内外に発信することによって、交流人口を拡大し、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を成功に導く一助にしようという取組であり、併せて区民の郷土意識と誇りを一層深め、帰属意識を涵養しようというもので興味深い取組である。

講演会シリーズ「江戸から学ぶ」は、平成30年5月から始めて、平成31年1月26日には第7回としてロバートキャンベル氏（国文学研究資料館館長）を講師に、講演会（テーマ：江戸との対話から見えてくるもの）と、トークセッション（テーマ：江戸を未来に活かす台東区）を行う予定であり、興味深く豪華な内容となっている。

更に、江戸まちたいとう芸楽祭は、ビートたけし氏を名誉顧問に向かえ、夏と冬の年二回開催している。内容は、子どもから大人まで気軽に楽しめる芸能や演劇のパフォーマンス、映画の野外上映会など多彩なプログラムで、台東区の江戸から続く多彩な芸能文化を多くの皆さんに肌で感じていただくことを目的としている。これも興味津々の台東区ならではのイベントである。

今回は、話だけ伺って、残念ながら実際に事業を直接目にする事ができなかった。

地元の文化を地元の皆さんに理解し共有していただくことは、コミュニティーの維持という視点からも重要なことだ。

大崎市においても同様の取組が求められる。それは、「地域まつり」と呼ばれるそれぞれの地域に根付いている祭りや互市の様な「市」が、それぞれの地域の文化を引き継いで来ているが、一部では昨今参加者の減少などで存続が危ぶまれる事態となっている。

台東区の例を参考に、行政が、市民や事業者と協働し文化を発信し、無関心の市民を巻き込んで、コミュニティーの維持に繋ぐ取組を進めていかななくてはならないのではないかと考える。

今回得られた知見を基に、大崎市政に政策提言できるよう市民の声を聞くと共に、会派内で更に議論を深めたい。

今回の会派視察にあたり、快く受け入れて頂いた台東区の皆さんに感謝すると共に、準備等でお世話になった事務局職員の皆さんに謝意を示し報告とする。